



特定非営利活動法人日本森林管理協議会
FSCジャパン
2024度 年次報告書

FSC® F000218

FSC® Japan Annual Report 2024

Contents

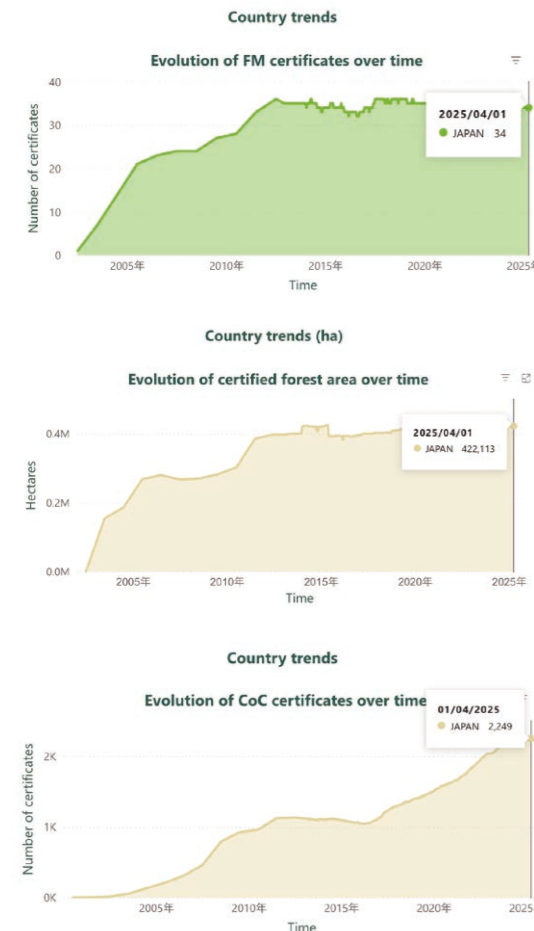
1. FSC 認証の状況	4
1.1 日本国内・全世界のFM / COC 認証取得状況	4
1.2 プロジェクト認証	5
2. 活動報告	6
2.1 指針・規格関係	6
2.1.1 EUDR、CoC 認証規格改定、生態系サービス、商標規格	6
2.1.2 責任ある森林管理のための勉強会	7
2.1.3 国内規格改訂の進捗状況	7
2.2 認証制度支援	8
2.2.1 FSC エデュケーションプログラム& FSC アワード	8
2.2.2 イベント	8
i. 三井物産&九州電力主催「FSC 認証材の価値を高めていくためのアイデア創出ワークショップ」	8
ii. 30 周年記念事業	9
iii. FSC 生態系サービス国際フォーラム	10
iv. アフリカ熱帯林の先住民族招聘	11
展示・キャンペーン	12
i. MOCTION 企画展 vol.73	12
ii. 第 45 回ジャパン建材フェア	12
iii. FSC フォレストウィーク 2024	13
実施一覧表	13
2.2.3 お問い合わせ対応	15
2.3 商標管理	15
2.3.1 非営利目的の商標使用申請について	15
2.3.2 プロモーションライセンス	16
2.3.3 プロモーションライセンス取得者へのメリット追求	16
2.4 FSC 国際事務局 / アジア太平洋地域主催活動への参加	17
2.4.1 グローバルスタッフミーティング	17
2.4.2 FM 短期集中講座	18
2.4.3 森林管理コミュニティ年次会合	18
2.4.4 FSC アジア・パシフィック地域会合	19
3. 総務・会計報告	20
3.1 総務	20
3.2 財務	23
3.3 FSC ジャパン会員・FSC 国際会員数の推移	26
4. まとめ	27
今期の活動・ビジョン等	27
謝辞	27

1 FSC 認証の状況

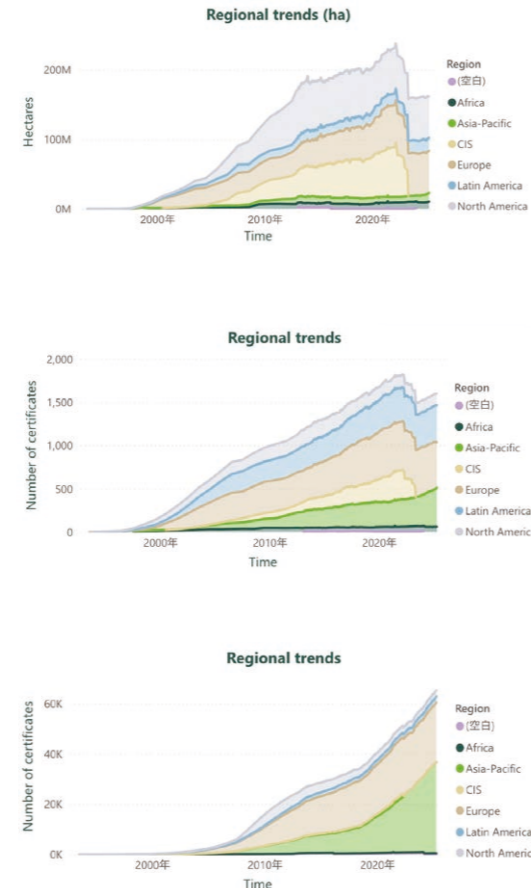
© MASAHIRO KAWATEI PHOTOGRAPHY

1.1 日本国内・全世界のFM/COC 認証取得状況

日本国内 (左側)



世界 (右側)



2025年4月1日現在で、世界の森林でのFM認証取得総数は1,601、面積で161,623,872 haで、ロシア・ベルラーシを排除後いずれも右肩上がりであり、CoC認証取得者数では常に増加中で65,372件に至っています。一方、日本国内ではCoC認証取得者数は右肩上がり、2,249となっている一方、FM認証取得総数は34、面積で422,133 haでいずれも横ばい状態でありその増進は喫緊の課題です。

そうした状況ではありますが、飛騨市の市有林約6,200haでFM認証が取得され、2024年4月5日に授与式が行われました。



飛騨市の授与式参加

1.2 プロジェクト認証

日本では、2025年3月までに79件のプロジェクトが認証されており、1社の連続プロジェクト認証取得者がいます。2024年4月以降では、13件のプロジェクト認証が誕生しています。日本はオランダ、イギリスについて、世界で3番目にプロジェクト認証が多い国となっており、FSC認証木材普及のためにも引き続きプロジェクト認証を推進していきたいと思えます。プロジェクト認証の詳細はこちら (https://www.jp.fsc.org/jp-ja/Project_certificate)

2024年3月以降に登録されたプロジェクト認証リスト (参照: <https://search.fsc.org/ja/>)

認証タイプ	プロジェクト名 (ライセンスコード)	認証発行日
全体	PACO access bridge floor renovation work (FSC-P002148)	2025/02/17
特定部位	Nursing Home Mind Minaminouchi (FSC-P002126)	2025/01/27
全体	Living with Cedar and cypress born in Tenryu (FSC-P002091)	2024/11/28
特定部位	浜松市立佐鳴台保育園 FSC 認証プロジェクト Hamamatsu-Sanarudai Nursery School FSC Project (FSC-P002058)	2024/10/18
特定部位	TODA HQ PROJECT (FSC-P002014)	2024/10/11
全体	The project for unit-Type House for Experimental Purposes (FSC-P002064)	2024/09/25
特定部位	Hamamatsu-Tenryu-Gym FSC Project (FSC-P002049)	2024/09/25
特定部位	Hamamatsu-Shirawaki After School Childcare Centre Project (FSC-P002059)	2024/09/25
特定部位	Hamamatsushi Kakuro Primary School FSC Project (FSC-P002076)	2024/09/25
特定部位	New Construction of Seikei University Hall No. 11 (FSC-P001959)	2024/04/26
特定部位	浜松学芸中学校・高等学校ときわホール FSC 認証プロジェクト Hamamatsu Gakugei Tokiwa Hall FSC Project (FSC-P002060)	2024/04/25
特定部位	日南町森林組合事務所 Nichinancho Forestry Association Office (FSC-P002048)	2024/04/25
特定部位	ANOBAKA Office Workspace Project (FSC-P002029)	2024/04/03

FSCジャパン理事がいくつかのプロジェクト認証の認証授与式に参加させていただきました。



戸田建設株式会社 (2024年10月25日)
※特別応接室天井トラ明日や役員廊下等4箇所



株式会社 ANOBAKA (2024年4月22日)
※オフィスで使用するテーブルや小上がり

2.1 指針・規格関係

2.1.1 グローバルな指針・規格関連の動きとその対応

● 欧州森林破壊防止規則（EUDR）関連

欧州森林破壊防止規則（EUDR）の当初の期限だった2024年末に向け、本部ではEUDR対応のためのシステム変更や各種ツールの開発が進められていきました。従来のFSC認証に任意で追加することによりEUDR対応ができる、「EUDR対応FSCアラインド認証」が開発され、EUDRとの齟齬をなくするためのシステム全体にわたる変更も行われました。7月には、FSC史上初めて、日本語を含む12か国語の同時通訳付きでこれらを紹介するウェビナーが開催されました。更に、ブロックチェーンによりトレーサビリティを管理するFSCトレースも開発され、事前登録者向けの試験運用も始まりました。EUDRの適用期限は1年延期されることになったため、2025年も引き続きシステムの更新・改善が行われる予定です。FSCジャパンではこれらの規格文書や販促ツール（チラシや動画）の日本語版を作成し公開しています。管理木材リスクアセスメントもEUDRに対応したものにすべく、プロセス規定が改定され、2024年には優先20か国で本部主導のセントラライズド・リスクアセスメントの策定が進められました。日本では2025年にこのプロセスが行われる予定で、2024年度には国際事務局主導で草案作成のコンサルタントの選定が行われました。

● 生態系サービス

2021年より運用が開始された、生態系サービス効果実証の改定手順がコンサルテーションを経て承認され、2025年7月1日から発効することになります。日本ではまだ生態系サービスについて主張した例はありませんが、今後気候変動対策やネイチャー・ポジティブ経済の実現に向けて注目されることが期待されています。この動きを促進するため、3月28日にはFSC国際事務局の生態系サービスチームを招き、生態系サービス国際フォーラムを開催しました。（P.10参照）

● CoC 認証

CoC認証改定に向けた方向性についてのコンサルテーションが行われました。影響の大きな規格であることから、文書を翻訳すると共に日本でもその内容を概説したウェビナーを開きました。

● 商標規格

「認証取得者によるFSC商標の使用に関する要求事項」改定プロセスの中で重要な、テクニカルワーキンググループの対面セッションが2025年2月にドイツで行われました。FSCジャパンも、オブザーバーとして参加し、日本の状況を訴えました。

2.1.2 責任ある森林管理のための勉強会

FM認証取得者に有用な情報を提供するため、2021年から始まったオンラインセミナーシリーズも数を重ねました。2024年度前半は、三井物産・九州電力主催の「FSCの価値を高めるためのアイデア創出ワークショップ」が行われていたため、一時中止としていましたが、9月に再開し、年度末までに以下のようなテーマ・講師で3回行い、毎回数十人から百数十人の参加者を集めました。

日付	テーマ	講師
2024/09/13	OECM/自然共生サイトと企業による自然保護の取り組み	小林誠（環境省自然環境局自然環境計画課 課長補佐） 和田紘尚（アサヒグループジャパン株式会社事業企画部主任） 谷口徹（九州電力株式会社 業務本部 管財センター 北部エリアグループ長）
2024/12/11	大型野生動物と人間の共存に向けて～生物多様性と森林～	山本麻希（長岡技術科学大学物質生物系 准教授）
2025/02/12	里山の資源利用による森林環境の保全	黒田慶子（神戸大学名誉教授、神戸市副市長）

2.1.3 国内規格改定の進捗状況

2019年に初の日本国内森林管理規格（NFSS）が発効してから5年たち、既に次の改定の時期に来ています。しかし、各国の国内規格策定/改定プロセスを監督する本部の指針・規格部のリソースが、リスクアセスメントも含めたEUDR対応に割かれており、既に原則と基準第5版に基づく国内規格をもつ国では改定プロセスの開始は受け付けられないとの本部から方針が示されました。これにより、日本における規格改定は2025年度中には始められないことになりました。

2.2 認証制度支援

2.2.1 FSCエデュケーションプログラム&FSCアワード

16社から協賛いただき、FSCエデュケーションプログラムの配布と第5回FSCアワードを開催いたしました。エデュケーションプログラムでは、全国67校に森林破壊やFSC認証について学んでもらう教材を配布し、6422名*の中高生に対し、教材を使用した授業が行われました。また、2024年4月1日～9月1日を応募期間として、中高生を対象に「あなたの生活の中で、FSC認証製品を選ぶことが、どのように森林保全につながるのか、調べたことを元に、課題や改善策を発表しよう」という課題でアイデアを募集したFSCアワードでは、一次審査を通過した4組に9月28日に開催した最終審査会にてプレゼンを行なっていただき、中学生の部、高校生の部でそれぞれ最優秀賞を受賞した2組をジュニア・アンバサダーに任命しました。なお、前回実施時の教員アンケートの結果を反映し、開催時期を4月～9月に変更した結果、同時期に競合するコンテストが非常に多く開催されており、前回開催時より大幅な応募数減となりました。

*教員から申込時に申請された授業実施予定生徒数に基づく



中学生の部 最優秀賞：聖霊中学生徒会執行部の皆さん



高校生の部 最優秀賞：高橋 巧己さん

FSCエデュケーションプログラムの教材はどなたでもご利用いただけます。ダウンロードはこちらから。https://jp.fsc.org/jp-ja/Tools_and_Materials

2.2.2 イベント

i. 三井物産&九州電力主催「FSC認証材の価値を高めていくためのアイデア創出ワークショップ」

2024年1月から6月にかけて、認証取得者である三井物産と九州電力の共催・FSCジャパンの協力で、FSC認証材の普及促進に向けたアイデア創出を目的とするワークショップが、

全国5都市（東京・名古屋・大阪・仙台・福岡）で全6回開催されました。

このワークショップには、FSC認証材を直接扱う認証取得者だけでなく、金融機関、建築設計士、IT企業、環境団体、行政など、業種を超えた多様なステークホルダーが参加し、課題ごとに6つの班に分かれて、さまざまな角度から活発な意見交換が行われました。



全6回を通じて、オンラインと対面をあわせて143名が参加。最終回となった福岡では、各班からプロジェクト認証普及するための不動産投資信託（REIT）活用やサプライチェーンの川上と川下のマッチングのためのプラットフォーム作りなど、アクションプランの提案発表が行われました。また、最終回終了後には九州電力社有林の見学会も実施され、本取り組みを通じて深まったステークホルダー同士のつながりに、今後への大きな期待が寄せられました。

ii. 30周年記念事業

FSCが国際的に30周年を迎えることを記念し、FSCの世界と日本における軌跡を振り返るとともに、未来のFSCについて語り合うことを主旨として、11月29日（金）に30周年記念フォーラム「30 Years of FSC: Driving Sustainable Impact in Japan and Beyond」



を永田町の星陵会館で開催いたしました。会場とオンライン合わせて300名以上（会場参加208名、オンライン参加最大115名）の皆様に参加いただき、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブを目指す社会におけるFSC認証の更なる普及に向け、新たな一歩を踏み出しました。

開会挨拶として、FSCジャパンと長きにわたり活動を共にし、本年9月にFSC国際事務局長を退任したばかりのFSC国際事務局 特使キム・カールステンセンとFSCジャパン代表 太田猛彦がご挨拶させていただき、来賓挨拶では林野庁長官 青山豊久氏、環境省 自然環境局長 植田明浩氏のお二人よりご挨拶いただきました。

その他、30周年を記念して、記念誌、記念動画、ノベルティ（FSCのキーチェーンとGOTS認証のトートバック）を制作しました。今後は、記念誌や動画のために実施させていただいたインタビュー内容の活用、議員の皆様や関係省庁の連携を深めていきます。



30周年記念誌はこちら。
<https://jp.fsc.org/jp-ja/newsfeed/20241206>
 30周年記念動画はこちら。
<https://www.youtube.com/watch?v=FOlviWNaDJ0>

iii. FSC生態系サービス国際フォーラム

2025年3月28日、四ツ谷のプラザエフにてFSC生態系サービス国際フォーラムを開催しました。本イベントはFSC国際事務局の気候・生態系サービスチーム（以下、ESチーム）の来日に合わせ、ネイチャーポジティブに取り組む日本の企業の皆さまを対象にしたもので、



最新の国際動向や日本国内の先進事例を共有するとともに、ご参加企業の皆さまの課題共有と意見交換の場となるよう企画しました。前半は林野庁、環境省からのご挨拶をいただいた後、株式会社レスポンスアビリティ代表足立直樹氏による基調講演、ESチームによるFSC Verified Impact（責任ある森林管理に基づく森林の多面的機能を独立した第三者に検証してもらい、対外的に発信するための効果検証サービス）の説明が行われました。後半は株式会社エコロジーパス永石文明氏の「事業者における生物多様性モニタリング手法」、南三陸森林管理協議会佐藤太一氏の「南三陸森林管理協議会のネイチャーポジティブに向けた取り組み」、三井住友銀行松岡哲也氏による自然資本の取り組み紹介といった話題提供に続いて、

登壇者によるパネルディスカッション、参加者による課題別ラウンドテーブルディスカッションが行われました。事後アンケートでは、回答者の9割強が満足度が高かったと評価し、特に参加者同士のディスカッションに対するポジティブな感想が多くありました。一方で、ESチームからの説明がやや概念的で、具体的な話をもっと欲しいといった声もありました。FSC Verified Impactを日本で導入する際の障壁や生物多様性クレジットとの関係など、取り組むべき課題は多くありますが、本フォーラムを通じてFSCの多様なステークホルダーの皆さまと共に持続可能な生態系サービスを考える貴重な機会となりました。



iv. アフリカ熱帯林の先住民族招聘

2024年12月13日から22日まで、事務局長のイニシアティブのもと、事務局長がFSC入職前長年アフリカ熱帯林地域でお世話になった先住民族二名と研究者一名をコンゴ共和国から日本へ招聘しました。資金は事務局長が会員である「認定NPO法人 現代の理論・社会フォーラム」主導のクラウドファンディングです。招聘目的は、彼ら先住民族が従来から依拠してきた熱帯森林の消失と彼らのライフスタイルの変貌について、当人たちの言葉から日本に届けるトークショーを日本国内5箇所（東京4箇所；札幌1箇所）で実施することでした。熱帯材目的の拡大的な森林破壊がある現状で、FSC認証林業事業者からどのような影響や恩恵を受けているかの話題も提供されました。いずれもイベントは盛況で、日本の先住民族アイヌとの文化交流を通じて同じく直面する先住民族に関わる問題点も共有されました。



トークショーでの一場面（中央二人が先住民）



自由学園でのトークショー後（左端に速水副代表理事）
 ©井口康弘

展示・キャンペーン

i. MOCTION 企画展 vol.73

日本の木と FSC 森林認証～持続可能な国産材を選んで森の恵みを未来へつなげよう～

8月1日から27日の期間、国産木材の魅力発信拠点 MOCTIONにて、「MOCTION企画展 vol.73 日本の木とFSC森林認証～持続可能な国産材を選んで森の恵みを未来へつなげよう～」を開催しました。12事業者の協力のもと、日本各地のFSC認証国産材を使用した家具や小物、内装材や建材などの暮らしに関わ



るFSC認証木製品を展示し、808名にご来場いただきました。多くは一般の来場者でしたが、ジャパン建材フェアと開催時期が重なったことで、どちらも訪問した方が多数いらっしゃいました。週末には家族で楽しみつつFSC認証の意義について知ることができるワークショップも開催し、参加したお子様からは今後はFSCマーク付きの製品を選びたいとの感想をいただきました。

ii. 第45回ジャパン建材フェア



8月22日、23日の2日間にわたり東京ビッグサイトで開催された「第45回ジャパン建材フェア」にブースを出展し、7事業者に協力いただきFSC認証の建材や内装資材等の製品サンプル等を展示しました。また、同会場内で開催された「炭素貯蔵・森林認証・クリーンウッド法ミニセミナー」に登壇し、来場者

の皆様にFSC認証を紹介しました。建築業界の皆様との新たな出会いや情報交換の機会となり、来訪者の話からは昨年と比較してFSC認証への関心やFSC認証製品の需要が少しずつ高まっていることが窺えました。

iii. FSC フォレストウィーク 2024

FSCが毎年開催するグローバルキャンペーン「FSC フォレストウィーク 2024」が9月21日から27日に開催され、「小さな一歩一歩の積み重ねで大きな変化を起こそう！」をテーマに、世界中の参加企業の皆様と共に、気候変動対策や生物多様性保全における森林の重要性や、FSC認証製品を選ぶことが森林保全につながることをSNS等で発信しました。地域ごとのソーシャルメディアのインプレッション数の結果は、ヨーロッパが6163万、次いでアジア太平洋が6080万と他地域と比較して多く、投稿数は世界全体で1392件に及びました。日本からは10社にご参加いただき、合計インプレッション数は28,789、合計投稿数は59件でした。



30年以上にわたり、@FSC_JCは森林破壊から森林を守るために活動しており、私たちもこの活動に携わっていることを誇りに思います。

そしてFSC認証製品を選ぶことは、林業を支援することにつながります。

#FSCForestWeek @FSC_Japan [FSC®N003072]



実施一覧表

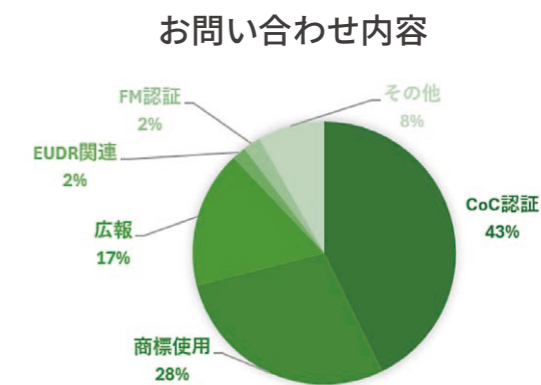
日付		形式*	場所	活動タイプ	参加者人数
2024/4/4	三井物産・九州電力主催「FSCの価値を高めるためのアイデア創出ワークショップ」第3回	H	愛知	協力	57
2024/4/24	三井物産・九州電力主催「FSCの価値を高めるためのアイデア創出ワークショップ」第4回	H	大阪	協力	50
2024/4/26	関東学院大学・日本マクドナルド株式会社・横浜市共催「トレイマットデザインコンテスト」	R	神奈川	協力	50+
2024/5/16	三井物産・九州電力主催「FSCの価値を高めるためのアイデア創出ワークショップ」第5回	H	仙台	協力	46
2024/5/27	FSC ジャパン 第18回 通常社員総会記念講演	H	東京	主催	91
2024/6/14	三井物産・九州電力主催「FSCの価値を高めるためのアイデア創出ワークショップ」第6回	H	福岡	協力	93
2024/6/10	高知農業高校オンライン研修	O		登壇	10

2024/7/26	富山県でのFSC認証取得にむけての勉強会	R	富山	登壇	20
2024/8/1-8/27	MOCTION 企画展 vol.73 日本の木とFSC森林認証～持続可能な国産材を選んで森の恵みを未来へつなげよう～	R	東京	主催	808
2024/8/9	日本生物教育会 2024 東京大会	R	東京	登壇	16
2024/8/22-23	第45回ジャパン建材フェア	R	東京	出展	-
2024/8/9	キリンスクールチャレンジ	R	神奈川	協力	18
2024/9/13	責任ある森林管理のための勉強会第14回	O		主催	154
2024/9/14	みえ森林・林業アカデミー	H	三重	登壇	17
2024/9/21	FSC フォレストウィーク 2024	O		協力	10社
2024/9/25	CoC 認証規格改定コンサルテーション	O		主催	105
2024/9/28	第5回FSCアワード最終審査会及び表彰式	O		主催	23
2024/10/3	サステナブルフォーラム 2024	R	東京	登壇	40
2024/10/3	環境マネジメント研究会	H	東京	登壇	10
2024/10/16	全国木のまちサミット 2024	R	岐阜	登壇	80
2024/11/25	JICA 森林研修会	R	東京	登壇	20
2024/11/29	FSC30周年記念フォーラム	H	東京	主催	323
2024/12/11	責任ある森林管理のための勉強会第15回	O		主催	82
2024/12/14	サステナブル調達と国際認証のいま エコプロ 2024	R	東京	登壇	80
2024/12/17	アフリカ熱帯林の先住民族とのトークショー (共催)	R	東京	共催	100
2024/12/18	アフリカ熱帯林の先住民族とのトークショー (共催)	R	東京	共催	150
2024/12/21	アフリカ熱帯林の先住民族とのトークショー (共催)	R	札幌	共催	100
2025/1/22	国際認証ラベルで取り組む食卓のSDGs 辻調理師専門学校	O		登壇	30
2025/1/30	FSC FM 認証入門セミナー :	O		主催	148
2025/2/12	責任ある森林管理のための勉強会第16回	O		主催	164
2025/2/20	FSC インドネシア・インドネシア建築協会共催オンラインセミナー : Green Building in Japan: Innovating with FSC-Certified Wood	O		協力	140
2025/3/28	FSC 生態系サービス国際フォーラム	R	東京	主催	92

*形式 (R)/オンライン(O)/ハイブリッド(H)

2.2.3 お問い合わせ対応

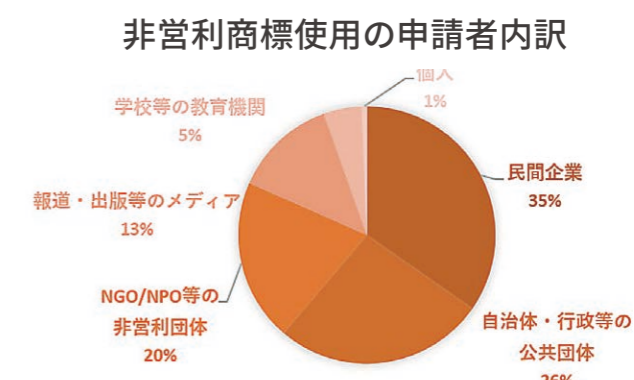
FSCジャパンの日々の重要な活動として、日常のお問い合わせ対応があります。2024年度の1年間で、FSCジャパンウェブサイト上のお問い合わせフォームを経由したご質問やご相談は合計414件あり、最も多いお問い合わせはCoC認証関連（177件）で、商標使用に関する質問（117件）、広報関連（70件）と続いています。なお、2回目以降のご質問や、個別窓口がある商標関連は、同フォームを経由しないため、本データではカウントしていません。質問内容としては、CoC認証あるいはプロモーションライセンス取得の必要性を問うものや本来はFSC国際事務局が対応すべきテクニカルなサポート（ポータルサイトにログインできない、など）などが多くなっています。



2.3 商標管理

2.3.1 非営利目的の商標使用申請について

2024年度1年間で、非営利目的の商標使用申請が147件ありました。申請者の属性*は、多い順に民間企業51件、自治体・行政等の公共団体39件、NGO/NPO等の非営利団体30件、報道・出版等のメディア19件、学校等の教育機関7件、個人1件です。



*属性は申請者の判断をそのまま採用しています。

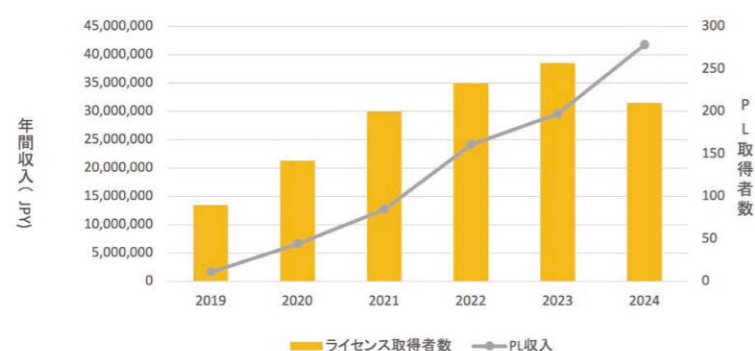
また、使用場面としては、環境やサステナビリティのテーマで使われることは依然として多いものの、昨今、エシカル消費に関わる文脈においてFSCが言及されることが増え、その割合は全体の3分の1強を占めています。使用媒体も教科書や副教材、漫画への採用が広がり、昨今の認知度調査（特に若年層）でFSCの認知度が上がっていることに大きく関係していると考えられます。

2.3.2 プロモーションライセンス

2024年1月からプロモーションライセンスの料金体系が改定されました。主な改定ポイントは、国内ライセンスの料金が国際ライセンスと同様に、法人の売上高が考慮されるようになったことで、ライセンス取得

者の多くを占める国内ライセンス取得者に大きな影響が及んだ1年でした。この改定によって、値下げになるケースもあるものの、多くの事業者様にとっては値上がりとなり、特に、費用が安価だったためライセンスだけ保有していた企業や法人規模が大きいために大幅な値上がりになってしまうところなどを中心に、ライセンスを停止する動きがみられました。2024年12月末時点のプロモーションライセンス取得者数は198組織で、新規ライセンス取得者は13組織である一方、75組織がライセンスを終了しました。しかしながら、日本のプロモーションライセンス取得者は、依然としてドイツに続いて2番目に多い数で、ライセンス収入の単価が上がった結果、取得者数は減少しても、収入は増加しています。

プロモーションライセンス (PL) 収入推移



2.3.3 プロモーションライセンス取得者へのメリット追求

2024年は料金改定の影響で、既存ライセンス取得者への説明に時間をかけて丁寧なコミュニケーションを行う必要があったため、メリットを感じていただけるといった追加的なサービスを検討・実施する時間があまり取れませんでした。それでも、ライセンス取得者さまのご希望を実現した事例として、FSC認証林



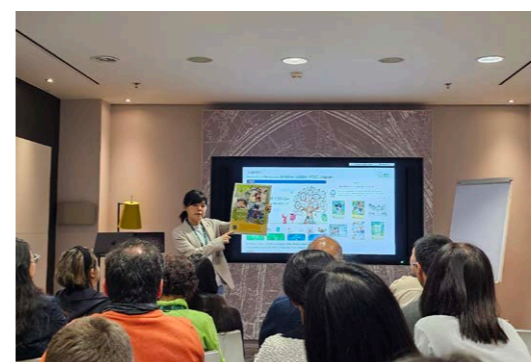
訪問の企画・実施がありました。実施後のアンケート結果から「認証林の取組を知ることが

できた」「認証取得者のご苦労が分かった」といった貴重な意見も聞かれました。

FSC最終製品をお取り扱いいただき自社の広告宣伝にFSC商標をご利用いただくプロモーションライセンス取得者の皆さまに、今後も積極的にFSC認証林の魅力伝える機会を作りたいと考えています。

2.4 FSC 国際事務局／アジア太平洋地域主催活動への参加

2.4.1 グローバルスタッフミーティング



2024年4月15日から19日、各国のFSCスタッフが一堂に会し情報交換を行う「グローバルスタッフミーティング」がドイツ・ケルンで開催されました。FSCジャパンからは、事務局長を含む4名のスタッフが参加しました。

全体会議に加え、さまざまなトピックに関するサイドミーティングも多く行われ、国や

地域を越えた活発な情報・意見交換が行われました。ミーティングのテーマは多岐にわたり、EUDR対応や生態系サービスといった注目の話題、CoC認証やFMの原則と基準の改定といった規格関連の議論のほか、天然ゴムやファッションといった特定業界に焦点を当てたマーケティングや広報活動、さらには、ITの開発・活用、プロジェクトの企画・管理、雇用やリーダーシップといった内部的なテーマまで、幅広く取り上げられました。

プロモーションライセンスのセッションでは、ライセンス取得者数が多く、かつ協働的な取組みが進んでいる地域の事例報告があり、オーストラリア、中国、韓国とともに、日本からは、スタッフの白井が2023年の取組状況を報告しました。

2.4.2 FM 短期集中講座

2024年7月29日から31日 ベトナム・ホーチミンシティにおいて、FSC国際事務局主催による、FSCスタッフ向けにFSC-FM認証を理解するためのFM短期研修プログラムが開催され（認証機関のPreferred by Natureが実施）、FSCジャパンから事務局長と白井の2



名が参加しました。このプログラムは、4-6時間相当のeラーニングと現地研修から構成され、まず、渡航前にFM認証の原則など基本的な知識を6時間程度、オンラインで学び、現地では2日半に亘る全体研修を行いました。現地の研修では、マレーシアにあるFM認証林を審査モデルケースに、審査計画書の作り方を学び、FM審査員役になって審査を行うロールプレイングまでを初めて体験し、きわめて有意義な研修となりました。また、帰国後は、コースモジュールに設定されている“FM審査員試験”を受け2人とも合格することができました。

これまでFSCの重要な柱であるFM認証がどのような審査が行われているか関心はあったものの、想像の範囲でしかありませんでしたが、今回の研修によって、審査員はどのような基準と手順で審査を行うのか、そしてFSCの公開データベースで掲載されている各認証林の審査レポートはどのように記述されていたのか、その一端を知ることができました。なお、FM短期集中講座と連続して、8月1日-2日にASIとの中核的労働要求事項の研修も行われ、三柴、笹本が参加しました。

2.4.3 森林管理コミュニティ年次会合



FSCでは、各国独自性にも配慮しながら規格の整合性を保ち、また、国の枠を超えた共通課題を話し合うため各国のFM担当者の集まり、Forest Management Community（森林管理コミュニティ）が定期的にミーティングを行っています。月

一回のオンラインミーティングのほか、年に1回、対面でもミーティングが行われますが、2024年は、ルーマニアのブラショフでこの会合が行われました。

10月15～17日に行われたこの年次会合には34の国・地域から47名の参加者が集まり、来るべき原則と基準の改定、EUDRの影響、グループ&コミュニティ森林管理の普及、生態系サービス効果検証等、様々なトピックで活発な意見交換が行われました。また、各国の担当者同士、規格策定/改定やEUDRに沿ったリスクアセスメントの進捗状況等、通常のオンラインミーティングでは共有できない貴重な情報交換の場となりました。

2日目にはルーマニアの認証林の見学会が行われ、認証取得者や現地の専門家の話を聞き、ルーマニアの森林管理の歴史やFSC要求事項の適用について理解を深めました。

2.4.4 FSC アジア・パシフィック地域会合

2024年11月18日から23日まで、香港のアジア・パシフィック地域（APAC）事務所にて、地域ネットワーク会合が開催され、FSCジャパンからは事務局長が参加しました。トピックは、全体総括ほか商標管理、マーケット（特にゴム・アパレル）、生態系サービス、会員、コミュニケーション、EUDR、初心者向け講座など多岐にわたりました。11月20日は生態系サービスフォーラムが実施され、香港などから多数の企業の参加があり、2025年3月に東京で実施された同様のフォーラムに多いに参考となる機会となりました。

この会合では、就任してからおよそ一年を迎える事務局長として、APACの主要メンバーとより深く親交する機会となったことが何よりも収穫でした。また2025年から新たに始まる財務提供システムRAINについての説明を受け、ネットワークパートナーとしても諸活動に対してOKR（目的と鍵となる結果）を求めていくべき示唆を受けました。1) FSC認証取得者増の加速化；2) マーケットでの影響拡大；3) 政府との結束強化；4) ネットワークリーダーシップの適正化；5) アジア・パシフィック地域のさらなる発展が2025年の優先プロジェクトとして挙げられましたが、FSCジャパンとしては特に1) と3) は特筆すべき優先事項であり、そこをメインターゲットとした活動戦略の構築が喫緊の課題となっており今後実現に向けて鋭意準備中です。

3.1 総務

理事会について

2024年度は、定時理事会を4回（5月23日、8月20日、11月15日、3月7日）、また臨時理事会を2回（1月31日、3月17日）実施しました。そのほか理事会とは別に、理事および事務局スタッフの意見交換の場としての臨時理事懇談会を2回（7月3日、10月24日）開催しました。こうした会合において事務局長として最大限目指したことは、2024年4月事務局長就任時に代表理事・副代表理事から託された大きな任務の一つとして、事務局スタッフの日々の活動や目的、委託事業者の情報など理事の方々により透明性を持って報告することでした。

とりわけ新規の試みとしての臨時懇談会では、理事会においても十分に議論されてこなかった「FSCそもそも論」（FSCとは何か、FSCジャパンの課題・ミッションなど）について、またこれまであまり進展の見られなかった「FSCによる先住民族アイヌへの理解および彼らへの社会貢献のあり方」やこれまで確立されていなかった「2025年の現行9名理事の改選および新規理事3名の選出に伴う決定プロセス」について意見交換を致しました。

活動戦略の構築を目指して

2024年度は「FSC30周年記念事業」や「生態系サービス国際フォーラム」の日本での実施など、大きなイベントの準備・開催・報告などに多くの時間を割くこととなりました。その一方、日々の活動を実施・継続するにあたって、到達すべき具体的な指標および「FSC認証取得を増大させるための効果的な情報提供」というFSCジャパンのミッションとの整合性・費用対効果など考慮されるべき点が、事務局長の観察ではそれらが系統的にFSCジャパン内部で議論・確立されているようには見受けられませんでした。これはどんな組織においても必須の課題であるという観点から、事務局長主導でまずは現状の諸活動と今後関わるべき活動を一覧にまとめ、それがFSCジャパンのミッションとの関わりでどのように位置づけられ、各活動の対象ターゲットが何であり、また費用対効果として実のある活動であるかどうかの検討を始めました。それに基づき2025年度において、FSCジャパンが取り組むべきものを指し示したのが予算計画表に記載されたものです。留意すべきは本部からの意向でB to Cよりもっと重点を置くべきB to Bの活動に大きく移行している点です。

また2024年度から大きく変わってきたのは、APAC（FSCアジア・パシフィック地域）とのつながりやコミュニケーションをより密にすることで、国際組織のもとでのFSCジャパン

の活動やあり方をより一層検討する機会が増えたことです。こうした事案を一層深めるため、2025年6月にはFSC国際事務局主導で、FSCジャパンの活動戦略コンサル会合が理事および事務局スタッフの参加で東京にて実施されます。

理事改選へ向けた準備/実施

諸事情により2024年度で理事辞任を表明された3名（桂理事、金井理事、三柴理事）を補填するために、そして理事総数を9名から12名に増員するための追加の3名、合計6名の新規理事（経済3、社会1、環境2）の候補者選出が大きな課題となりました。それに向けて組織として一定のプロセスが確立されていない状況において、各チェンバーの候補者の提示、FSCジャパンが求める必要な分野に携わる人材確保の検討、理事による候補者選定へのプロセス、その手法としての投票結果の扱い方の精査など継続的議論を経て、最終的にようやく6名の選出に至りました（就任する理事メンバーは後述の表のとおりです）。

今後、2027年の理事改選時までには、理事の任期満期、ジェンダーバランス、年齢層などを十分に議論していかなければなりません。また定款でも明記されている、組織へ有益なアドバイザーとしての「顧問」を若干名募集したいと考えている次第です。

理事一覧（敬称略、各分会ごとに五十音順、*印は新任理事）

氏名	所属	分会
井田 徹治*	共同通信社 編集委員室 編集委員	環境
太田 猛彦	東京大学 名誉教授	環境
香坂 玲*	東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部 森林風致計画学研究室 教授	環境
相馬 真紀子	WWF ジャパン自然保護室 森林グループ長	環境
川崎 章恵*	愛媛大学 大学院農学研究科 准教授	社会
白石 則彦	東京大学 名誉教授	社会
山口 真奈美	一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会 (JSL) 代表理事	社会
内藤 大輔	京都大学農学研究科 助教	社会
沖 修司*	公益社団法人国土緑化推進機構 副理事長	経済
上河 潔*	公益社団法人森林・自然環境技術教育研究センター (JAFEE) 専務理事・事務局長	経済
西岡 敏郎*	一般財団法人日本不動産研究所 研究部 上席主幹	経済
速水 亨	速水林業 代表	経済

新規スタッフの採用・新規事務所について

事務局スタッフの日々の活動が明らかに現メンバーだけでは対処することが容易でない現状を踏まえ、最大二名程度の新規スタッフ採用を目指して、公募書類の準備、告知方法の確立、実際の募集と書類選考・面接まで一連の流れを2024年度後半に実施しました。面接まで残った最終候補者3名から2名を新規スタッフ候補者として選出しましたが、最終的にはこの2名の内定者は辞退する結果となりました。昨今の物価高や給与上昇の傾向から内定者は他の選択肢を選択したものと察しますが、こうした点も踏まえ2025年後半にはあらためて新規スタッフ採用を試みたいと考えているところです。

また登記先が元理事の富村氏の自宅となっている関係で、公的書類がすべてそちらに届きそれを事務局長に転送するという煩雑さが継続している点、および、その登記先と現行の事務所（HAPON新宿）が異なっている点などから、新たな登記先となりうる新規事務所を探す提案が出されてきました。いくつかの新規事務所の候補地を見学しましたが、収容人数など現実的な条件と合わない物件が多く、当面は現在のHAPON新宿を登記先とし事務所としても継続的に利用する暫定案が理事会で採択されました。これに伴う定款変更も総会後から始めていく所存です。

定款ページ数	条項	変更前	変更後
1	第1章総則 第2条	この法人は、主たる事務所を東京都世田谷区岡本2丁目18番5号に置く。	この法人は、主たる事務所を東京都新宿区西新宿7-4-4 武蔵ビル5階 HAPON 新宿に置く。
3	第4章役員及び職員 第13条(1)	理事9人以上12人以内	理事9人以上15人以内
3	第14条2	代表及び副代表は、理事の互選とする	代表及び副代表2名は、理事の互選とする

3.2 財務

活動計算書

特定非営利活動法人日本森林管理協議会 (単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費	485,164	
国際会員	540,103	1,025,267
2. 事業収入		
① 日本の森林・林業問題解決への取組みや森林の適切な管理経営を普及啓発する事業 * 認証制度支援活動	139,092	
② 森林認証制度等を活用した森林管理経営の推進を支援する事業 * ロゴマーク管理登録事業	41,442,104	
③ 森林・林業及びそれらに関わる流通に関する出版、講演事業など * セミナー、展示会事業など	1,262,724	42,843,920
3. 補助金等収入	95,303,993	
4. 寄附金収入	5,090	
受取利息	88,607	
経常収益計		139,266,877
II 経常費用		
1. 事業費		
① 人件費	31,099,886	
給料手当		
人件費計	31,099,886	
② その他経費		
委託業務費	25,709,911	
広告宣伝費	1,327,088	
交際費	360,365	
会議費	2,208,287	
旅費交通費	4,946,739	
通信運搬費	380,276	
消耗品費	274,302	
印刷製本費	537,806	
支払手数料	21,648	
諸会費	104,869	
賃借料	593,391	
支払報酬	1,335,271	
租税公課	20,200	
諸会費	62,000	
雑費	331,250	
その他経費計	38,213,403	
事業費計		69,313,289
2. 管理費		
① 人件費		
役員報酬	200,000	
給料手当	7,758,274	
法定福利費	5,754,186	
人件費計	13,712,460	
② その他経費		
福利厚生費	39,656	
委託業務費	105,712	
広告宣伝費	540,000	
交際費	52,431	
会議費	135,320	
旅費交通費	964,112	
通信運搬費	858,869	
消耗品費	397,045	
新聞図書費	98,511	
諸会費	17,500	
支払手数料	199,133	
地代家賃	2,106,479	
賃借料	166,574	
租税公課	2,848,386	
支払報酬	2,445,000	
為替差損	5,662	
その他経費計	10,980,390	
管理費計		24,692,850
経常費用計		94,006,139
当期経常増減額		45,260,738
III 経常外収益		
1. 貸倒引当金戻入益		
雑収入		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
1. 過年度損益修正損		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		45,260,738
法人税、住民税及び事業税		7,792,870
当期正味財産増減額		37,467,868
前期繰越正味財産額		132,031,881
次期繰越正味財産額		169,499,749

貸借対照表

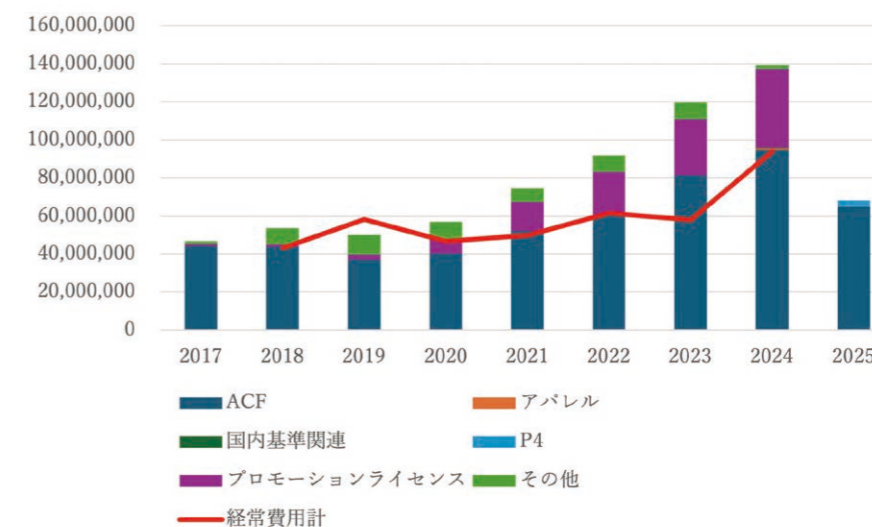
特定非営利活動法人日本森林管理協議会		(単位：円)	
科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	182,919,832		
貯蔵品	481,084		
前払費用	154,967		
未収入金	1,372,520		
流動資産合計		184,928,403	
2. 固定資産			
① 有形固定資産			
② 無形固定資産			
③ 投資その他の資産			
敷金	192,600		
投資その他の資産計	192,600	192,600	
固定資産合計		192,600	
資産合計			185,121,003
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	5,198,549		
未払法人税等	7,779,300		
未払消費税等	1,611,600		
預り金	977,369		
仮受金	54,436		
流動負債合計		15,621,254	
2. 固定負債			
負債合計			15,621,254
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		132,031,881	
当期正味財産増減額		37,467,868	
正味財産合計			169,499,749
負債及び正味財産合計			185,121,003

財産目録

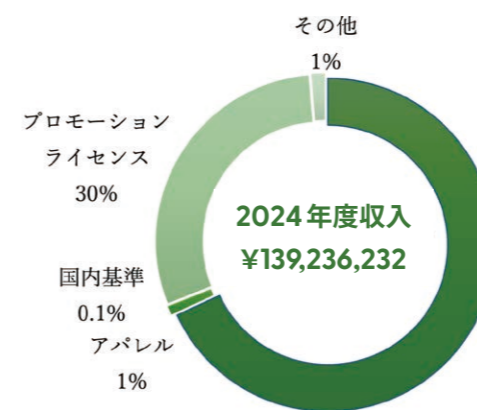
特定非営利活動法人日本森林管理協議会		(単位：円)	
科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手許現金有高	0		
普通預金 三菱UFJ銀行玉川支店	182,919,832		
貯蔵品 ハンズレット、三つ折りリーフレット等	481,084		
未収入金 プロモーションライセンス契約使用料、協賛金等	1,372,520		
前払費用 賛助会費・労務管理ソフト使用料等	154,967		
流動資産合計		184,928,403	
2. 固定資産			
① 有形固定資産			
② 無形固定資産			
③ 投資その他の資産			
敷金 HAPON 新宿	192,600		
投資その他の資産計	192,600	192,600	
固定資産合計		192,600	
資産合計			185,121,003
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
3月末締め給与ほか	5,198,549		
未払法人税等	7,779,300		
未払消費税等	1,611,600		
預り金	977,369		
仮受金	54,436		
流動負債合計		15,621,254	
2. 固定負債			
負債合計			15,621,254
正味財産			169,499,749

収入・支出の内訳(2024年度)と推移(2017年から2025年)

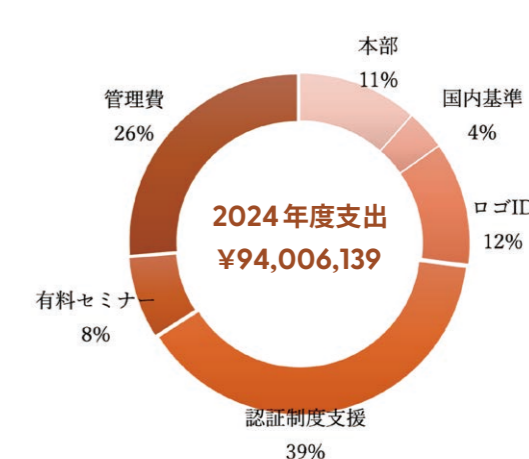
FSC ジャパン収入／支出推移



収入内訳



支出内訳



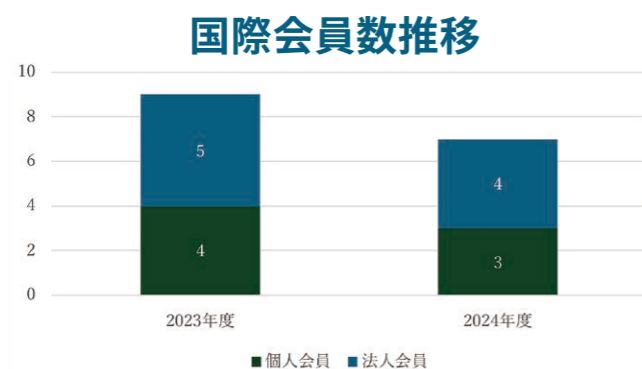
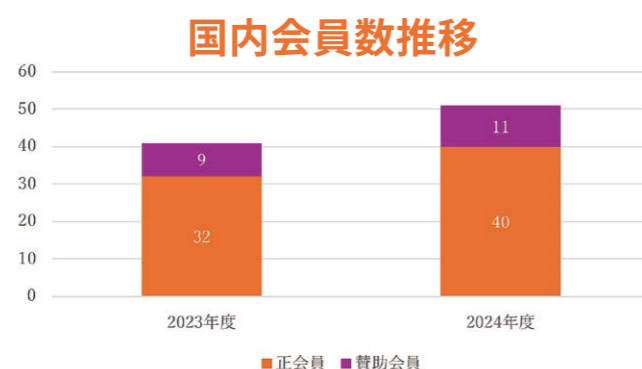
本部からの補助金（ACF）は2024年までは右肩上がりでしたが、2025年からは新たな計算システムRAINによりこの補助金額は減少しております。その代わりに各国FSC事務所は本部に対してプロジェクトごとの申請を募集し意義あるプロジェクトに資金を供与する「助成金制度（P4）」を新たに始めました。FSCジャパンも2025年は「規格・改訂」に関わる事業の申請助成金を受けております。プロモーションライセンスからの収益は年々増加傾向であり、2025年もその傾向は変わらないと推測しております。2025年からはあらためてこの活動を戦略的に構築していくFSCジャパンとしての初めての試みとなりましたが、収入・支出の割合は例年通り50-60%程度との予測です。

3.3 FSCジャパン会員・FSC国際会員数の推移

会員数推移 (各年度3月31日時点)

国内会員は、個人正会員が2人退会し、10人が新規入会したため、正会員の合計は8人増の40人となりました。また個人賛助会員に2人が新規入会しました。

国際会員は、理事の退任に伴い個人会員・法人会員それぞれから1人ずつ退会したため、合計数は2人減の7人となりました。



組織概要 2025年3月31日現在

団体名：特定非営利活動法人日本森林管理協議会 (通称：FSC ジャパン)

代表理事：太田猛彦

事務局長：西原智昭

設立年：2006年9月

登記住所：東京都世田谷区岡本二丁目18番5号

事務所所在地：東京都新宿区西新宿7-4-4武蔵ビル5F

組織構成：理事9名、監事1名、常勤職員5名

今後の活動・ビジョン

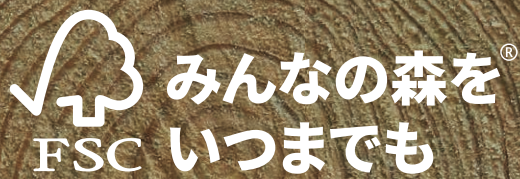
2025年度に目指すべきことは、主にB to Bに注視して、FM取得者・CoC取得者・プロモーションライセンス取得者の維持・普及増進にあります。重要活動としてそのための基礎となる関連議員・省庁とのパイプづくり、先住民族アイヌとの意見交換会も含む森林現場の訪問、FM/CoC規格改訂に向けた準備、生態系サービスやEUDR対応に有効なツールの説明・提供、認証木材の供給と需要のプラットフォームづくり、建築関係者や木材関係者への発信、のライセンス取得者に対する効率化、会員増を見越した手法の検討などが含まれます。以下に主要活動を示します。

事業分類 (定款上)	経理上の分類 (新・旧)	活動
(1) 日本の森林・林業問題解決への取り組みや森林の適切な管理経営を普及啓発する事業	国内基準管理 (旧) → 指針・規格 (新)	<ul style="list-style-type: none"> FM/CoC規格改訂に向けた準備 リスクアセスメント EUDR/生態系サービス対応
(2) 森林認証制度等を活用した森林の管理経営の推進を支援する事業	認証制度支援 (新旧ともに)	<ul style="list-style-type: none"> 議員・省庁とのパイプづくり 各地のアイヌとの意見交換 FM現場への訪問 認証材普及のプラットフォームづくり 建築・木材業界への発信
(3) 木材・木材製品の調達に関するトレーサビリティの検証に関する事業	ロゴID関連 (旧) → 商標管理 (TSP) (新)	<ul style="list-style-type: none"> プロモーションライセンス取得者のスムーズな管理体制構築 認証林ツアー企画
(4) 森林・林業およびそれらにかかわる流通に関する調査研究事業	認証制度支援 (新旧ともに)	<ul style="list-style-type: none"> 認知度調査の分析 木材関連展示会の調査
(5) 森林・林業およびそれらにかかわる流通に関する出版・講演事業	有料セミナー展示会 (旧) → 対外的イベント (新)	<ul style="list-style-type: none"> 各種講演やセミナーでの登壇/参加
(6) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	FSC本部対応 (旧) → FSC本部/APAC対応 (新)	<ul style="list-style-type: none"> 本部主催の活動戦略会議 国際総会参加

謝辞

2024年度は事務局長就任の初年度ということで、アフリカでのFSC事業者との連携事業という長年の現場経験はあったものの、FSCあるいはFSCジャパンの課題に関する知見が十分でない状況で、事務局・理事会運営でスタッフ及び理事の方々に多大なご迷惑をおかけしてきた一年であったこととお詫び申し上げます。そんな中で、スタッフの強力なサポートや理事の方々からのときには叱責を伴う貴重なアドバイスを投げかけてくださったという暖かいご支援があってこそその一年でした。あらためてみなさまにお礼を申し上げます。会員・国際会員の皆様に置かれましても、引き続きサポートをいただければと存じます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

(FSCジャパン事務局長・西原智昭)



特定非営利活動法人日本森林管理協議会 (FSC ジャパン)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-4-4 武蔵ビル5F

<https://jp.fsc.org>